

(様式1)		令和元年度 学力向上のための重点プラン【小学校】				新宿区立淀橋第四小学校		
■ 学校の共通目標								
授業づくり		重点	○基礎的・基本的な学力の定着を土台とし、ＩＣＴの効果的な活用や言語活動の充実を通して、主体的、対話的で深い学びを実現する。	中間評価	○基礎的・基本的な学力の定着は図られてきている。各学年、ねらいに沿った表現力を向上させる取組ができていますので、今後も継続する。	最終評価	○区学力調査による経年変化結果では前年度から向上がみられる。特に第3学年においては大きな向上が（標準スコア3ポイント）みられる。児童の思考を表現させるための学び合いや手だての工夫を進める。	
環境づくり			○ＩＣＴ・板書・掲示物の特性を生かし、児童の学習意欲を高める環境を整える。また、学習規律を全校で共有し、様々な背景をもつ児童も学びやすい学習環境を整える。		○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境づくりは、全校に定着している。児童の学習意欲を高めるICTの活用や板書の工夫に取り組んでいく。		○ユニバーサルデザインの取組や教員によるICT活用は定着している。さらに児童によるICT活用の視点から主体的、対話的な学びの充実を図る。児童の実態と学習内容を踏まえた教材研究を進め、学習意欲の向上を図る。	
■ 学年の取組み内容								
学年	教科	学習状況の分析（10月）		課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）		
1	国語	学「書くこと」について意欲的で、自分の気持ちなどを書くことができるようになった。 学片仮名や漢字の定着が難しい。		・平仮名の拗音や発音、また「は」「わ」、「を」「お」などの書き分けが難しい。 ・学習には意欲的だが、家庭で復習する習慣が身に付いていない。	・作文の学習で繰り返し指導をしたり、間違い探しプリントなどで復習をしたりする。 ・片仮名や漢字の小テストをしたり、繰り返し確認するための宿題を出したりすることで理解を確実にする。	・繰り返し指導をしたことで、正しく文を書ける児童が増えた。しかし、2割程度の児童はまだ書くことが苦手である。 毎週行っている日記の指導を通し、継続して指導をする。 ・反復練習を繰り返すことにより、ほとんどの児童が既習の漢字や片仮名についての理解が定着した。授業や宿題で継続的に繰り返し練習をするようにする。		
	算数	学繰り上がりや繰り下がりのない計算は概ねできるようになった。 学文章題を読んで、足し算・引き算のどちらをするのか理解するのが難しい。		・学校での反復練習には意欲的に取り組む様子が見られるが、家庭学習の習慣が身に付いていない。 ・文章をよく読まず、立式を誤ったり、回答方法を誤ったりすることが多い。	・既習事項を盛り込んだ内容のプリントなどを宿題に出すことで、繰り返し復習する機会を設ける。 ・文章に下線を引き、内容を確認する習慣を付けるよう指導する。	・家庭学習に取り組む習慣は身に付いた。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の計算がまだ定着していない児童がいるので、引き続き復習プリントなどを宿題にして学習の定着を図る。 ・問題を解く前に声を掛けることで、気を付けて問題文を読み取る習慣は身に付いてきた。しかし、学習してから時間が経ったり、問題を解く前に声を掛けなかったりすると、読み間違えることもある。定期的に反復練習をする。		
学年	教科	学習状況の分析（4月）		課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）	
2	国語	学漢字やカタカナを正しく書いたり読んだりすることが概ねできている。 学自分の思いや考えを表現することが苦手な児童が多い。		・漢字やカタカナ等、テストの時は学習に意欲的だが、家庭学習の習慣が身に付いていない。 ・話したいことを自分の言葉で伝えられず、教師が聞くまで待っていることが多い。	・日常的に漢字学習を行ったり漢字を宿題に課したりすることで、家庭学習の習慣を付ける。 ・5W1Hを意識して話したり聞いたりできるよう、日常的にスピーチを行い、質問タイムを設ける。	・漢字の細かい部分をまだ正しく書けていない児童が多い。 漢字の書き間違いやすいポイントを十分に指導する。 ・朝の時間にスピーチの取組を行うことで、5W1Hを意識して質問したり答えたりできるようになった児童が増えてきた。継続して取り組んでいく。	・漢字の書き間違いやすいポイントについて、日々指導したことで、似たような漢字を書いて誤答する児童が少なくなった。 ・5W1Hを意識して質問したり答えたりできるようになってきたが、筋道を立てて話すことが苦手な児童がいる。順序立てて話すことができるように、「はじめ」「中」「おわり」の文章構成や接続詞について指導を続けていく。	
	算数	学繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を正しく解く力が身に付いている。 学文章問題を読んで正しく立式することのできる児童は多い。しかし、言葉の意味を正しく理解できずに間違える児童がいるので、国語とも関連させて指導する必要がある。		・足し算や引き算について、正しく解くことができるが、次の単元に入ると忘れてしまうことがあるので、定着させていく必要がある。 ・文章問題を正しく読める児童は半数いるが、早とちりしてしまうことや問題の読み間違いがある。	・算数の学習の始めに、計算問題に取り組む時間を設けることで、理解を確実にする。 ・文章問題を読むときに、分かっていることと求めることを区別できるよう、下線を引く指導をすることで、正しく立式できるようにする。	・算数の授業の始めに、計算問題に取り組む時間を設けることで、計算を早く解けるようになってきた児童が増えてきた。継続して取り組んでいく。 ・下線を引くことで、キーワードに着目し、加法か減法かを判断することができるようになった児童が多い。継続して指導していく。	・算数の学習の始めに計算問題に取り組む時間を設けたことで、計算問題が早く解けるようになった。 ・問題文に下線を引いたり、図を使って表したりしたことで、正しく立式できるようになった児童が増えた。	
3	国語	調「書くこと」について、区及び全国の平均正答率を下回っている。また、作文に苦手意識をもつ児童が多い。 調「説明文を読み取る」や「物語文を読み取る」において、区の平均正答率を下回っている。 学5W1Hを意識して質問したり答えたりできる児童が多いが、接続詞を用いて話したり、話の要点を聞き取ったりできる児童は少ない。		・自由に文を書くことは好きだが、テーマが決まっていると正しく書けているか不安になってしまう児童が多い。また、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して書くことが苦手な児童が多い。 ・一文の中で、「だれが、どうした」等は捉えられるが、文章のあらすじを捉えることができていない児童が見られる。 ・つながりに気を付けながら話したり、大事なところを落とさずに聞いたりすることが苦手な児童が多い。	・週末に日記を書く宿題を継続的に行う。また、なぞり書きや視写に取り組ませることで、書くことに慣れるようにする。 ・連絡帳を書くことを通して、聴写することに取り組ませ、考えながら文章を書くことができるようにする。 ・叙述を基に場面の様子を思い浮かべる活動を設定し、想像したことを伝え合わせるようにする。 ・大事なことを落とさないように聞くために、よい話し方やよい聞き方についての話型や聴型を示し、指導する。	・書くことに慣れてきたが、文章構成を工夫することについては課題が見られる。作文の「はじめ」「中」「終わり」の構成を整えて書くことができるよう、モデル文を示したり、共通教材を用いた指導をしたりしていく。 ・聴写については、数回取り組んだ。今後は日常的に指導をしていく。 ・あらすじを捉える学習では、基となる叙述を探す活動をしたことで想像しやすくなり、考えを伝え合う様子が多く見られた。接続詞を使ったり、主語と述語を用いたりすることで、より相手に伝わるように指導していく。 ・姿勢や話型について指導を行ったことで、聞き方・話し方に改善が見られた。聞いた後に分かったことを自分の言葉で伝えられるように指導をしていく。	・共通教材を用いて書く時のポイントを示し、モデル文を用いて完成形についての見通しをもたせたことで、「はじめ」「中」「終わり」で書くべき内容を理解し、書き進めることができた。さらに、「はじめ」「終わり」を先に書く等、文章を書く順番の工夫をしたことで、児童の書くことへの負担感が減った。 ・聴写に取り組んだことで、聞く力が高まり、大切なことを落とさず聞けるようになってきた。 ・叙述から根拠を探す活動を続けたことで、人物の行動や心情を読み取る力が付いた。伝え合う活動を通して、友達のを考えを知り、考えが広まった。 ・姿勢に気を付けて聞かせることで大事なことを落とさずに聞くことができるようになった。さらに友達の発言を受けて自分の考えを発する姿も見られた。	
	算数	調「長さ・かさ」について、区及び全国の平均正答率を下回っている。 学計算問題を早く解けるようになってきた児童が多いが、個人差も大きい。 学時計を見て時刻が分かるようになってきたが、かかった時間を求める問題に苦手意識をもっている児童が多い。		・「長さ・かさ」の学習において、量感を捉えられていない児童や、2つ以上の単位が混在すると、目盛りを読み取れない児童が多い。 ・足し算の筆算を正しく解くことが苦手な児童がいる。 ・「時ごとと時間」の学習において、かかった時間を求める問題に苦手意識をもっている児童が多い。	・既習事項が身に付いていないため、毎日の宿題で復習に取り組む。 ・問題を正しく読み取れるよう、問題文に下線を引いたり囲んだりすることで、問題解決への見通しをもたせる。 ・アナログ時計と数直線を利用し、かかった時間を視覚化することで、かかった時間を求めやすくする。	・毎日の宿題に取り組ませることで、既習事項への理解の深まりが見られた。既習事項も宿題で出しながら、定着を図る。 ・キーワードに下線を引くことで、問題の理解ができるようになり、正しい立式や答えにたどり着けた喜びを感じる児童が増えた。継続することで、全ての児童が正しく問題を読み取れるようにしていく。 ・数直線を用いた指導により、理解の定着が見られた。学んだことを忘れないよう、宿題などで復習できるようにしていく。	・既習事項への理解が深まり、12月末には既習事項の理解が80%を超えた。ただし、かけ算や図形などでは、理解の定着が十分身に付いていない児童が見られるので、引き続き指導する。 ・問題文に下線を引いたり印を付けたりしたことで問題の場面を理解し、正しい答えを導く児童が増えた。問題文を読み取る力が十分身に付いていない児童もまだいるため、補充的な指導を続けていく。 ・数直線やアナログ時計などを用いて指導をしたことでかかった時間などを捉えやすくなり、正答を導くことができた児童が多くなった。	

4	国語	【調】関心・意欲が高い児童が多いが、「書くこと」について全国の平均正答率に到達していない。また、作文に苦手意識をもつ児童が多い。 【学】「読むこと」について、正しく文を読むことや、文章から場面の様子を読み取ることに意欲的に取り組む児童が多い。 【学】ＩＣＴ機器を使って資料を提示したり、発表する機会を設けたりしたことで、聞き手に分かりやすく伝えようとする意識が育ってきている。	・はじめ・中・終わりの構成を考えながら書くことや、読み手に伝わりやすくするために順番に気を付けて書くことに課題が見られる。事実や出来事を書くことはできるが、根拠を書くことに課題が見られる。 ・語のまとまりを意識しながら読むことに課題のある児童がいる。 ・漢字がもつ意味を忘れてしまうため、既習の字を同じ読み方の他の漢字と間違える児童が多い。	・文章を書くことへの苦手意識を減らすために、年間を通じて、行事を通じて作文を書く時間を設ける。また、月に一度は、物語や日記を書く宿題を設ける。 ・「書く」の単元では、構成メモを用いて、順序を意識して書くことを繰り返し指導する。 ・日頃から根拠をもって話す指導を行い、理由を書くことに慣れるようにする。 ・文章を読む際に、場面分けを全体で行う。また、登場人物の確認や情景を全体で確認することで、話のまとまりが変化したことに全員が気付けるようにする。 ・漢字の宿題を毎日行う。また、新出漢字を学ぶ際に、自分で文章を作る指導を行い、漢字のもつ意味に慣れるようにする。	・行事を通じて作文を書いたり、週に一回程度の日記を書いたりすることで、作文への苦手意識が少なくなった。今後も継続して取り組む。 ・構成メモや順序を意識させる指導の効果があり、順序を意識した文章が書けるようになった。 ・根拠を述べたり書いたりすることを意識付けたことで、多くの児童が文章の中で根拠を述べることができるようになった。 ・今後は根拠を全ての児童が書けるように個別指導を進めるとともに、作文を書くことに抵抗のある児童に、テーマを工夫した課題や書き始めの文を設定したり、どのようなことを書きたいか話したりするなど支援をしながら、書くことに慣れるようにする。 ・音読の宿題に毎日取り組んできたが、効果が上がっていない。話のまとまりを意識することに課題がある。音読を増やし、場面分けや情景の変化に気付けるようにしていく。 ・漢字の意味により慣れ親しむため、文章作りを続けるとともに、ドリルの定型文に取り組ませることで、意味に慣れ活用できるようにする。	・日常で文章を書く場面を多くしたことで、書くことへの苦手意識が少なくなった。 ・年間を通じて、根拠を述べることや、構成メモを活用した指導をしたことで、「はじめ・中・終わり」の構成を意識したり、根拠を意識したりして文章を書ける児童が増えた。 ・3学期から、群読や授業中の音読を増やしたことで、まとまりを意識して読むことに課題のあった児童がまとまりを意識して読めるようになった。 ・ドリルの例文や自分で文章を作成する等の学習を行ってきたが、正しく漢字を活用することがまだ十分に身に付いていない児童が見られる
	算数	【調】各領域において、目標値を超えているが、「１０００より大きい数」は、目標値に達していない。 【調】定期的に計算、作図や１万を超える数などの復習を取り入れなければ、既習事項を忘れてしまう児童が多い。 【学】具体物の操作を授業に取り入れることで、量感が身に付いてきている。 【学】計算に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組む習慣が身に付いている。	・１万を超える数の概念をとらえきれていない児童が多い。 ・数直線において、１目盛りの数を計算することが困難で、問題を解くことができない児童が見られる。 ・単位の量感が曖昧である。また、長さ、かさ、重さ等の単位を混同している児童が見られる。	・大きな数の概念を定着させるために、単位の書き込みや４ケタの区切り線を入れて考えるよう繰り返し指導する。 ・数直線の学習では、１目盛りの読み取りからスタートするように共通理解をし、指導していく。 ・年間を通じて具体物やＩＣＴを活用し、長さやかさについて量感の定着を図る。 ・以上の学習を進めるために、年間を通じて苦手な単元を取り入れた課題を家庭での学習に取り入れる。	・大きい数の学習において区切り線を入れた指導を行った。大きい数の単元テストにおいて８割以上の児童は、６割以上問題を解くことができた。 ・数直線の学習においては、１目盛りの読み取りを大切にした指導を行った。大きい数の単元テストにおいて、８割以上の児童が６割以上問題を解くことができた。 ・毎時間ＩＣＴを活用し、視覚的に学ぶことや量感を意識できるように指導した。角度の学習では予想を立てることを事前に行うように指導したが、予想を立てる段階で間違える児童が見られ、成果はあまり出なかった。単元後にも、プリントを通じて指導を続けている。 ・宿題プリントを通じて、各単元の復習を行っている。復習する中で学習が定着している児童が見られる。また、一度学習しているので苦手意識の払拭にもつながった。	・４ケタの区切り線の活用や年間を通じてのプリントを用いた復習を宿題として取り組んだことで、大きな数に対する概念を理解し、漢数で表すことや位を意識した解答などが東京ベーシックテストで見られ、東京ベーシックテストの正答率も２割強上がった。 ・１目盛りの読み取りを意識して指導を続けたことや、年間を通じての復習プリントによる宿題の成果から、児童の理解は深まった。 ・量感や単位を意識させた学習を年間で取り組んできた。かさ、面積などの単位は定着しているが、同じ単位での量感を理解したり、単位を変換したりすることには課題がある。学んだ時や復習した時に解けていても、期間が空くことで量感を忘れる児童がおり、まだ十分に身に付いてはいない。
5	国語	【調】「話すこと・聞くこと」の領域と言葉の学習において、区の目標値を下回っている。 【学】相手の立場を考えて話すことや朝のスピーチなどを続けたことで、聞き手に分かりやすく伝える力が育っている。聞く必然性を設け、聞く態度が育ってきたが、内容や大切なことまでを全員が意識しては開けていない。 【調】説明文の構成を理解できるように「始め」「中」「終わり」を意識した指導を続けたことで、説明文への苦手意識はなくなり目標値を上回ったが、区の平均値を下回っている。	・こ・そ・あ・ど言葉の表すものを理解することや、接続詞の使い方に課題が見られる。 ・話を聞くだけでなく、大切なことが何かを意識して聞くことや、話の内容を短くメモすることに課題が見られる。 ・説明文の中の文章が多くなると、読むことに抵抗を示す児童が見られる。	・100 文字～200 文字程度の短い文章を繰り返し書かせることで、言葉の知識を増やしたり、接続語の使い方に慣れさせたりする。 ・他教科においても、インタビューなどの聞き取る機会を増やし、話の内容を端的に理解することができるようにする。 ・朝読書や隙間読書などを多く取り入れ、文章への抵抗感を少なくさせる。	・学習の振り返りなど、書く活動の時間を随時とり、書けない児童には書く内容の具体例を示すようにしたことで、多くの児童が自分の考えを書けるようになった。また、単文で連ねて書く児童に対しては、適切な接続詞を用いて文をつなぐように指導する。 ・授業では、自分の考えの根拠を述べたり、相手の発言を受けて話したりする習慣が定着している。しかし、挙手発言については、児童が限定されるので、意図的な指名を行い、多くの児童が発表する機会を増やしていく。 ・朝の時間や、課題を終えた後の時間に読書に取り組んでいる。また、日常的に音読カードに取り組み、文章に対する抵抗感は少なくなっている。	・年間を通じてノート指導、詩の創作、生活や学習目標の作成など、書く力の育成に取り組んだことで、自分の考えを相手に伝えるように表現できるようになった。苦手意識を軽減することができた。 ・教師が一問一答の発問ではなく、児童の考えを受けて他の考えを表現させることで話し合いに深まりがみられるようになった。聞く力を育てることで他者の考えとの相違点を見出せるようになってきた。 ・音読に年間通して取り組んだことで、教科書を読む習慣が身に付いた。
	算数	【調】チャレンジタイムや繰り返し問題に取り組むことで、基礎活用問題どちらにおいても目標値を上回った。「折れ線グラフ読み取り」と「がい数」が他の領域に比べると低かった 【調】算数への関心、意欲が区の平均値を下回っている。 【学】文章を全体指導の中で要約することを続け、個人でも要約する力が身に付いた。そのことで、文章問題の立式は、四則演算の決定ができるようになった。	・折れ線グラフは、前学年１学期のテストではできていたが定着していない児童が見られる。 ・がい数や億、兆など大きな数を表す領域で位の間違いや、0が足りない等の誤りが見られ、自分で気付くことに課題がある。 ・文章問題の理解や作図などにおいて、自信をもてず、苦手意識をもつ児童がいる。	・他教科の活動でも、既習事項のグラフや表などを書かせる機会を多く取り入れ、グラフに関する基礎の定着を図る。 ・位取り表などを使って、視覚的にとらえさせることで、数量的感覚を身に付けさせ、がい数の基礎の定着を図る。 ・文章問題を解くために、簡単な絵や図を使って、文章題の意味を捉えさせ、立式できるようにする。 ・ノート指導の際に、定規やコンパスを使う機会を多く設け、作図をする力を高める。	・グラフに必要な情報が記入されていない児童が目立つ。グラフを描く際のルールを決め、継続して指導していく。 ・位取りに限らず、具体物やＩＣＴを使って授業を行うことで学習内容を理解できる児童が増えてきている。今後も児童の実態に沿った教材活用をしていく。 ・文章問題は、読解力が不足している児童ほど苦手な傾向にある。そこで、文章問題を扱う際に数値の関係を示した文、問いにあたる質問文で構成されていることを意識させて、一文ずつ読み解かせて指導する。また、数字や単位に着目する力を養うことも大切にしていく。 ・図形の学習においては、コンパスや分度器、三角定規といった道具を使う機会を課題プリントで今後も指導を継続していく。また、少人数算数の各コースで学習の流れやノート指導など共通した指導を継続していく。	・数量関係を視覚化することの便利さに気付かせることで割合を円グラフや帯グラフに表現することができるようになった。 ・教師がＩＣＴの活用を通して児童に学習内容をイメージしやすくすることで、学習の定着に効果があった。 ・考えを伝え合う活動を多く取り入れたことで、個々の考えをより深めることにつながり、活用する力が高まった。また、児童が説明する活動を取り入れたことで、理解を深めることができた。 ・作図について定着が不十分な児童がいる。図形の性質を、身近な物を使って説明をし合ったり、その性質を利用した図形のかき方を児童同士で伝え合ったりして、理解を深めていく。

	国語	調漢字の読み書きは目標値を上回るが、作文を書くことなど自分の考えを伝えるという面で下回っている。 調音読の宿題を継続して出したり、読書の時間を確保したりしたことで、漢字を読む力が身に付いてきている。 学文章を書き慣れていない実態があるので、宿題を活用するなど文章を書く経験を積み重ねていく必要がある。	・新出漢字の練習と関連させて短文作りを継続して行い、主述関係の理解の定着を図ってきたが、その力が作文を書く力につながっていない。 ・目標値は上回っているが、漢字を読むことに比べて書くことに課題がある。意味を理解しながら漢字を覚えていない児童が多い。	・国語に限らず、他教科でも自分で学習のまとめを書いたり、自分の考えを文章化したりする時間を設ける。 ・作文を書いた時には、教師が間違いを指摘するだけではなく工夫した表現や自分の気持ちを書けている部分に線を引くなどして書いたことを価値付ける指導を行う。 ・漢字のミニテストを継続して行い、新出漢字に加えて既習の漢字を書く機会を設ける。	・作文を書く時に、過去の文集を読ませて型を知る時間を作ったり、途中で友達と見せ合ってアドバイスをしたりすることで学級の9割の児童が自力で文章を書くことができるようになってきている。 ・新出漢字の宿題では、自分で考えた短文作りを行ったりミニテストを継続して行ったりしている。バランスのとれた文字を書くことに課題が見られる児童が3割程度いるため、漢字の構成や筆順を丁寧に指導し、覚えやすくなる手だてをとる。	・文章の書き方を継続して指導したことで、文集を自分の思いを表現して自力で書き上げることができた。筆者の考えや自分の考えをまとめる学習も積み重ねたことで、文章を書く力が身に付いてきた。 ・新出漢字の指導ではホワイトボードに大きく漢字を書いて指導し、意味や成り立ち、熟語の使い方を説明することで9割程度の児童が漢字テストの点数を伸ばすことができた。さらに定着を図るために、読書を通して語彙を増やしていくことに取り組む。
6	算数	調全体的に目標値を上回っている。 調体積と面積の区別が混在しているため、公式を使いこなすことができない。 学計算は得意だが、文章題になると最後まで読まない傾向がある。そのため、単位を付けなかったり間違えたり、正しく立式できなかったりすることが多い。	・学習単元が終わってしまうと、計算方法や公式を忘れてしまう児童が多い。 ・平面と立体の違いなど、図形の学習に苦手意識をもつ児童が多い。 ・文章題の中でも、かけ算かわり算かを判断する問題でつまずくことが多い。	・宿題に既習内容のプリントを取り入れ、復習の機会を作る。 ・既習の図形が出てきた時は必ずその図形の特徴を児童に言語化させ、それぞれの図形の特徴を繰り返し思い出させるようにする。 ・文章題では数直線を活用するよさを指導し、正しく立式する力を高めていく。	・新しい単元に入るたびにその学習内容に関連する復習を行うことで、既習事項を思い出す場面が増えた。 ・上記のことから、多くの児童が図形の特徴を言語化できるようになってきている。 ・文章を読むことに抵抗がある児童がおよそ半数程度いるため、図や数直線で表しながら文章を読むことを習慣化させ、解ける体験を積み重ねて自信につながるよう指導を継続していく。	・各単元の終末に要点を指導することで、計算の工夫や図形の特徴を8割程度の児童が理解できるようになった。分からない時に自分から質問に来られる児童が増えたことで、個別に対応して定着させることができた。 ・文章問題では、問題文に線を引く、図や数直線で表すといった方法を継続して教えたことで、問題文を読もうとする児童は増えた。反面、既習事項と結び付けて答えを導き出すことはまだ十分に身に付いていない。

音楽	学学習への意欲が高く、特に歌唱への興味・関心が高い。高学年は違うパートを歌い合わせる喜びを感じている。 学リコーダーの運指について、フラットやシャープになると困難になる児童が各学級に数名いる。	・歌う意欲はあるが周りの声に耳を傾けず、叫ぶような声で歌う児童が数名いる。 ・左手のみの動作は難なくできるが、右手が加わったりフラットシャープが入ったりする、運指が難しくなる児童がいる。	・頭声発声でないと歌えない曲を取り入れながら、発声方法を変えていく。 ・常時活動にリコーダーのフラットやシャープのある曲を取り入れ練習を積み重ねる。特に苦手意識の高い児童には、個別に指導する時間を設け、習熟を図る。	・特に中学年では、まだ地声が出て叫ぶような場面がある。音楽会の指導の中で周りの声をよく聴き合わせるよう指導する。 ・4年生以上でシャープやフラットのある曲に取り組んできた。個人指導の時間も設けたことで定着してきている。	・音楽会を通じ、どの学年も表現することへの意欲が以前よりも高まった。歌唱については高学年らしい声に憧れて自然で無理のない発声が中学年でもできてきた。 ・リコーダー奏で繰り返しシャープの運指を指導したことで、高学年では定着が見られた。
図工	学豊かな発想をする児童が多いが、なかなかイメージが浮かばない児童がいる。 学イメージをもつことはできるが、どのように表したらよいか分からない児童がいる。	・様々な体験が作品づくりに生かしていない児童がいる。 ・はさみやのこぎりなどの切る道具や絵の具やクレヨン等の描画の道具を、自分の思い通りに使えない児童がいる。	・表現の幅を広げるために様々な作例を、ICTを活用して示し、いろいろな技法を習得できるようにする。 ・既習の道具の使い方を授業の初めに使い方の確認をしたり思い出したりするための時間を設け、繰り返し取り組むことで操作がスムーズにできるようにする。	・作例を提示するだけではなくICT機器を活用し、作る過程を提示した。作っている過程から発想する児童もいた。 ・用具の使い方を掲示することで、使い方が曖昧なときに見ることができ、作品作りがスムーズにできる児童が増えた。	・作り方や作例を見せる時にICT機器を通してホワイトボードに大きく見せたり、実物を通して美しさを見せたりしたことで、児童のイメージを膨らませる助けとなった。 ・用具の使い方を常掲するこることにより、使い方を確認できる児童が増えた。また、それを見ながら、何度も練習したことにより自信を持って作品作りに望める児童が増えた。
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。